

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	人文社会特論 E		
英文授業科目名	Researches in Humanities and Social Sciences E		
開講年度	2004年度	開講年次	3, 4年次
開講学期	5, 7学期	開講コース・課程	夜間主コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-上級科目-上級科目		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	古屋 祐子 (学内連絡教官 佐藤 賢一)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ

【主題および達成目標】
日本の近代美術の歴史を理解する。また明治・大正期の美術界を代表する作品を通じて、“新しい表現”の獲得を目指して挑戦を続けた作家たちの活動の様子を追う。

【前もって履修しておくべき科目】
「無し」

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
「無し」

【教科書等】
教科書は使用しない。参考書等のプリントと毎時間配布する。参考文献は初回の講義の折に掲示する。

【授業内容とその進め方】
作家の履歴、当時の美術界の動向や社会状況等を傍証して、作品にみられる表現を分析する。毎回スライドを用いる。具体的な作品名等については後日(9月頃)追記する。

電気通信大学 平成16年度シラバス

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(評価方法) 出席状況(20%)とレポート提出(複数回。80%)とを併せて 評価する。
(評価基準) 出席状況: 講義回数の半分以上出席のこと。 レポート: 課題に従った内容
となっていること。自分の考えや根拠を もって論じられていること。

【オフィスアワー: 授業相談】

講義終了時から午後1時迄

【学生へのメッセージ】

圧倒的な西洋文明と出会い、日本は江戸の幕藩体制から明治の近代国家へと変貌する。そのような明治及び大正期において、美術界でも"洋画"の摂取や"日本画"の誕生等、伝統を超えた革新的で近代的な表現が追求されていく。作家たちが求めた"新しい表現"とはいったいどういうものだったのか、その点に注目していく。

【その他】